Nagoya University Archives
9 200800 008478

81 坂田記念史料室 ―世界の物理学史を語る―

このたび、益川敏英博士（名大特別招へい教授）と小林　誠博士（名大特別招へい教授）がノーベル賞を受賞したことで、２人の師である坂田昌一博士（1911－1970、名大名誉教授）への関心が高まっています。

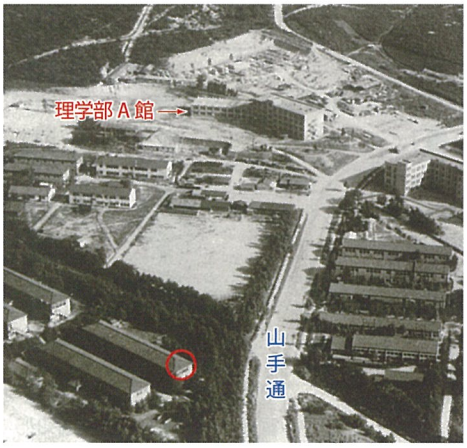
もっとも坂田博士は、もう少し生きていればノーベル賞受賞の可能性が高かったとも言われる、現在の素粒子物理学の基礎をきずいた世界的に著名な物理学者です。『広辞苑』にも「坂田」の項目にその名前が取り上げられているほどです。

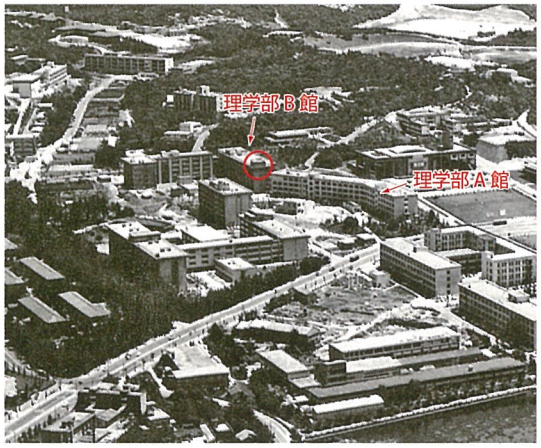
益川博士は昭和33(1958)年、小林博士は38年に名大理学部に入学し、坂田博士が在職のまま亡くなる45年まで、坂田研究室で学問的基礎をかたちづくったことを考えると、坂田博士が２人に与えた影響はきわめて大きなものがありました。益川博士は、受賞時のインタビューに対し、われわれが受賞できて多少なりとも「坂田物理」を世界に顕示できた、と語っています。

坂田博士が教員として28年在籍した名大理学部物理学科（物理学教室）には、博士の膨大な個人資料が保存されています。博士の死後、物理学教室は博士の諸活動に関する資料を収集・保存することを決め、昭和48年には博士の教授室を坂田資料室として、そこに残された資料とともに保存し、61年に坂田記念史料室と改称しました。

この坂田史料は、博士の原稿や手記、ノート、メモ、書簡類、蔵書、さらに日本学術会議原子核特別委員会といった博士が関わった機関の資料などからなっています。名大史にとどまらない、日本、世界の物理学史を語るきわめて貴重な資料群です。すでに『坂田記念史料室資料目録』がありますが、理学研究科では資料のフィルム化、デジタル化、目録の整備などを進めています。

現在、名大博物館で開催中の「2008年ノーベル物理学賞・化学賞受賞記念特別展」（３月28日まで）においても、坂田博士についての展示が行われています。





1 | 2 | 4
3

1　昭和34（1959）年の理学部一帯。A館の増築工事が進んでいるが、当時の坂田研究室は木造の２号館（○印）にあった。豊田講堂の基礎工事の様子も見られるが、この直後の伊勢湾台風によって工事が遅れることになった。

2　昭和45年の理学部一帯。この頃には坂田研究室もB館に移っていたが、この年に坂田教授は亡くなった。益川博士が京大へ移ったのもこの年のことである。

3　坂田記念史料室。B館の坂田教授室をできるだけ当時のままに残し、そこに坂田史料が保存されていたが、現在は耐震工事の関係でA館に移されている（写真は移転前）。また同室には、早川幸男、有山兼孝などの諸教授の資料も保存されている。閲覧を希望する方は、事前に物理学教室（052-789-2876）へご連絡ください。

4　坂田記念史料室にある坂田昌一像。昭和56年に坂田博士夫人の信子氏より理学部素粒子論研究室に寄贈された。製作者は彫刻家の清水多嘉示。

※名大平和憲章にもうたわれている、名大の学風「自由闊達」という言葉が使われはじめた経緯などについて、少しでも何かご存じの方がおられましたら、大学文書資料室（052-789-2046、nua_office@cc.nagoya-u.ac.jp）までご一報ください。